



〔問①〕 DWATはど
ういう状況で誰を対
象にどんな活動をす
るのか説明してくだ
さい。

避難所で要配慮者支援

DWATの研修会で、避難者支援に求められる視
点を考える福祉関係者ら＝9月、大分市大津町



DWAT 災害 (Disaster)、福祉 (We
lfare)、支援 (Assistanc
e)、チーム (Team) の頭文字を取った言葉。

7月の大雨の際には、最
大23世帯・44人が身を寄せ
録している。

2011年の東日本大震
災や16年の熊本・大分地震
では避難が長期化し、災害
関連死や持病悪化といった
二次被害が起きたことから
全国で設置が進み、現在は
46都道府県に組織がある。
大分県は18年12月に発足
し、53法人、264人が登
録している。

DWATは、災害時に避
難生活を送る高齢者や障害
者、子どもら要配慮者に接
して福祉的な支援の必要性
を判断したり、避難所の住
環境の改善をしたりする。
介護福祉士や社会福祉士、
看護師など民間の専門職で
構成する。

避難所などで高齢者や障害者の健康や生活を支える県災害派遣福祉チーム・大分
DWAT(ティワット)の活動が本格化している。発足から5年で認知度が徐々
に上がり、今夏は大雨で被災した日田市の要請を受けて初めて現地に派遣された。
事務局を担う県と県社会福祉協議会は「頻繁に災害が起きる中で、福祉的な視点の
備えも必要になっている」として、メンバーの育成に力を注ぐ。

DWAT 育成に力

〔問②〕 DWATはど
んな職業の人たちで
構成されていますか。

介護福祉士や社会福
祉士、看護師など民
間の専門職

〔問③〕 大分県内で
はいつ発足しました
か。

2018年12月

〔問④〕 大分DWATは今夏の大雨で被災した日田市で活動しました。具体的にどのようなことをし
ましたか。

血圧や服薬の状況、体調の変化を毎日聞き取った。寝具の手配や体操の指導などもした

〔問⑤〕 県や県社会福祉協議会は人材育成を進めています。以下の空欄を埋めてください。

2026年までに【 70 】法人、【 310 】人の登録を目指す。

7月大雨 日田市に初の派遣

た日田市の複合文化施設ア
オーゼに県がDWATを派
遣した。計17日間、29人が
交代で現地に入った。
「体力の低下やコミュニ
ケーションの減少で、避難
者の精神的な負担が大き
くなっていった」と参加した
メンバー。持病や障害のあ
る要配慮者を中心に血圧や
服薬の状況、体調の変化を
毎日聞き取った。寝具の手
配や体操の指導などもし
た。
県や県社協は26年までに
70法人、310人の登録を
目指し、人材育成を進める。
大分市で9月に開いた福祉
施設職員らを対象にした研
修会には約30人が参加。避
難所で求められる福祉二
ツや対応の仕方を学んだ。
年明けにも別の研修を予定
する。
県社協の災害ボランティア
ア・福祉支援センターの森
美菜子副所長(31)は「大規
模災害になれば、避難生活
はさらに大変になる。被災
者の困り事を少しでも軽減
できるよう、サポート態勢
を整えたい」と話した。
(大塩信)